

農業技術センターニュース

目 次					
	ナスすすかび病の薬剤耐性菌の発生状況	…1		ピーマンの促成栽培における 局所暖房技術の検討	…5
	塩類集積土壌における硫酸イオンおよび 塩素イオンの簡易分析法	…2		ユリ香り抑制剤処理による 香氣成分量の抑制効果	…6
	ユズ果実の輸出に向けた防除薬剤の検討	…3		‘やぶきた’で作る紅茶の発酵程度を 測色色差計で調査	…7
	炭酸ガスの施用が促成キュウリの生育、 収量に及ぼす影響	…4		マルチと植物成長調整剤による 「土佐文旦」の高品質化	…8

ナスすすかび病の薬剤耐性菌の発生状況

表 各薬剤の耐性菌発生状況

薬剤名	調査 菌株数	耐性 菌率	調査ほ場 (市町村およびほ場数)
アミスター 20 フロアブル	18	100%	田野町 1、安芸市 2、夜須町 1、 香南市 1、大月町 1
トリフミン 水和剤	69	62.3%	田野町 1、安芸市 3、芸西村 4、 香南市 11、高知市 1、大月町 3
カンタス ドライフロアブル	66	39.4%	田野町 1、安芸市 3、芸西村 4、 香南市 12、高知市 1、大月町 1
アフエット フロアブル	66	0%	田野町 1、安芸市 3、芸西村 4、 香南市 12、高知市 1、大月町 1

写真 カンタスドライフロアブル
感受性菌（左）と耐性菌（右）
に対する同剤の防除効果

すすかび病は県内のほぼ全てのナスほ場で発生する難防除病害です。すすかび病菌は薬剤耐性になりやすい糸状菌ですが、潜伏期間が約1ヶ月と長いため、直近の薬剤散布による防除効果が分かりにくく、耐性菌の発生に気づきにくい病害です。

そのため2012年に県内ナスほ場から分離したすすかび病菌を用いて、各種殺菌剤への耐性を調べました。調査は薬剤添加培地を用いた生育試験または遺伝子診断法により行いました。その結果、アミスター 20フロアブルについては、調査した菌株全てが耐性菌で

あり、トリフミン水和剤とカンタスドライフロアブルについても耐性菌の発生が認められました（表）。

これらの耐性菌に対しては薬剤の効果が55～95%程度低下することが分かりました（写真）。

耐性菌をこれ以上発生させないためにはローテーション散布の徹底が必要です。センターでは、今後、本病に効果の高い薬剤を探索する予定です。

（病理担当 岡田知之 088-863-4915）